

ラグビーの聖地化こそが

ワールドカップの大いなる遺産！

「スポーツの聖地づくり」を合言葉に、スポーツの普及や交流の拡大などを目指す静岡県は、県民がスポーツに親しむ環境づくりやトップアスリートの育成などを積極的に行っている。今回は、昨年のラグビーワールドカップの成功に続く、次世代へのレガシーづくりについて紹介する。

静岡の名を世界へ

世界中を熱狂の渦に巻き込んだラグビーワールドカップ2019日本大会。本県においても予想以上の盛り上がりを見せ、競技会場となった小笠山総合運動公園エコパスタジアムでは、日本代表がアイルランド代表に勝利し、世界中に「シズオカ・ショック」と報じられた日本代表戦の約4万8千人を筆頭に、合計4試合で約17万6千人が観戦。東京・横浜の会場を除く地方会場で開催された全31試合の観客動員数におけるベスト4とめた。

本県が独占した。ファンゾーン、公認チームキャンプ地、おもてなしエリアなどの各会場も熱気に包まれ、経済波及効果は234億円と言われている。それから約1年。県は、大会の成功と感動を次世代へ語り継ぐため、そのレガシーづくりとなる「ラグビーの聖地化」を進めている。

ラグビー聖地化検討会

2020年の年明け、ワールドカップの余韻を引き継いだ「ジャパンラグビートップリーグ」は、これまでにない注目を集

めて開幕を迎えた。ところが突然のコロナ禍に大会途中での中止を余儀なくされる。ラグビーファンの定着を願う関係者にとつて出鼻をくじかれる形になった。しかし、だからこそ県が果たすべき役割は大きい。エコパスタジアムで開催を予定していた日本代表対ウェールズ代表のテストマッチが中止になるなど打撃を受けながらも、県はレガシーづくりへの歩みを着実に進めている。

県は今年6月から、ラグビー聖地化検討会を開催。県内ラグビー関係者など12人による意見交換を進め、この9月に「地域で

支える仕組みの構築」「競技人口の拡大」「指導体制の整備」という3本柱を今後の方針としてまとめた。

「デル」として全国へ提唱し、ラグビー人口の拡大と指導体制の強化を図る構えだ。

地域で支える仕組みの構築は、近年の少子化により学校単位でチームを組めない中高生を対象に、学校の部活動という既存概念にとられない枠組みでスクールやクラブを支援し、地域で年齢ごとにラグビーと親しめる環境をつくらうとする動きだ。今年7月には県内の高校生を対象にした「エコパラグビーハイスクール」(袋井市)も開校した。さらに、エコパを全国屈指のラグビーができる環境とするため、ラグビー場を現在の2面から5面に向けて順次整備していく構えだ。

検討会では「15人制ラグビー」よりもチーム編成のしやすい「7人制ラグビー」に力を入れる。目標となるよう本県独自の大会も来年度以降の開催に向け準備を始めている。検討会はこうした取り組みを「静岡モ

「ラグビー教育レガシー推進校」に指定し、ヤマハ発動機ジュビロの選手らによる実技指導や講演をすでに始めている。ラグビー憲章に掲げられている品位、情熱、結束、規律、尊重という5つの価値を学び、ラグビーの特性である走る・投げる・蹴るといった運動要素を強化できれば、トータルとしてラグビー文化の高揚を促し、競技人口の拡大はもちろん、7人制から15人制への転向やステップアップも期待できる。

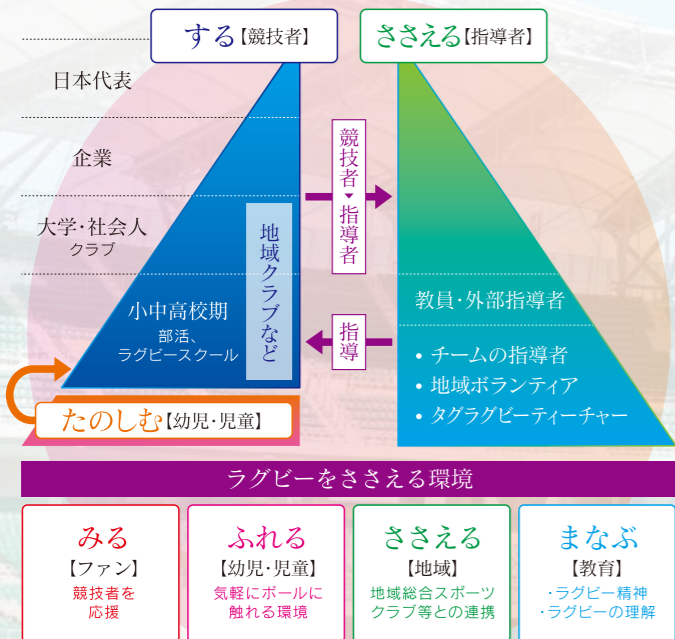
感動の記憶を呼び覚ます動きもある。今年9月27日に行われた「開催1周年記念イベント」では、「シズオカ・ショック」の立役者、元日本代表の福岡堅樹選手のトークショー、エコパを拠点に活動する女子7人制ラグビーチーム、アサレア・セブンの試合、ヤマハ発動機ジュビロの選手による

親子ラグビー教室などとともに、個人や団体からの寄附も受け制作されたモニュメントの除幕式が行われた。1年前の感動を後世に語り継ぐシンボルができたことで、小笠山総合運動公園エコパが、ラグビーの聖地実現に向け第一歩を踏み出した。

東京2020大会へ弾みを

ラグビーを「する」「みる」「ささえる」「まなぶ」の4つの視点でラグビー文化の高揚を目指す「静岡モデル」。東京2020オリンピックの正式種目にもなった7人制ラグビーを軸に、地域で支える仕組みを構築できれば、ラグビーの聖地化は加速し、来年開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピックへ向けても弾みがつくだろう。エコパ、国内トップレベルのチーム、多くのファンと指導者、そしてラグビーワールドカップの成功を背景に進む県のレガシーづくりは、そのままスポーツ王国の道へとつながっている。

ラグビー聖地化に向けた体系図



9月27日にお披露目されたラグビーモニュメント。モニュメントのモチーフとなった福岡堅樹選手も参列した。



世界にシズオカ・ショックと報じられた日本代表対アイルランド代表戦。勝利の瞬間、エコパスタジアムは大歓声に包まれた。



ラグビー教育レガシー推進校での県とヤマハ発動機ジュビロが連携した体験授業。